

統合データベース推進本部（仮称）への申し入れ事項（案）

1. これからのライフサイエンスのブレークスルーは、存在する莫大なデータから仮説を創生してそれを検証する、データドリブン型の研究により達成される。
2. 広くデータを共有してこそイノベーションの加速化が実現できる。従って、我が国バイオ産業の発展には、網羅的に効率よくデータにアクセスできる環境が不可欠である。
3. データ共有できる環境を構築するためには、多岐にわたる対象や階層のデータベースの統合化とこれを構築、維持する機関の存在が必須である。
4. 統合データベースはライフサイエンス分野の国力の象徴であり、米国のNCBI、欧州のEBIに相当する機関の設立が望まれる。
5. 上記機関の運営は、データ生産者の協力や利用者の意見を集約しながら進めることが重要であり、そのため各機関の代表者も含めたオープンな運営に努める必要がある。
6. 統合データベースは質の高い個別データベースの上に成立するものであり、個別データベースを構築、維持するための仕組みは別途考慮されるべきである。
7. ライフサイエンス分野のデータは、種類、量とも急速に増大している。そのため、統合データベースの将来的な持続可能性を担保するための仕組みを検討する必要がある。
8. 統合データベースの有用性を維持するためには、恒常的に使い勝手やデータの付加価値向上を図る必要があり、そのため研究開発機能を備える必要がある。
9. ライフサイエンス分野のデータベース構築や統合化のための人材は不十分であり、統合データベース構築と連携した人材育成やキャリアパスの構築が必要である。

以上